

## 注 意 事 項

1. 試験問題の数は 30 問で解答時間は正味 1 時間 40 分である。
2. 試験問題の持帰りを認めない。
3. 解答方法は次のとおりである。

(1) 各問題には a から e までの五つの答えがあるので、そのうち質問に適した答えを(例 1)では一つ、(例 2)では二つ選び答案用紙に記入すること。

(例 1) 101 県庁所在地 (例 2) 102 県庁所在地はどれか。

はどれか。

2 つ選べ。

- a 大宮市
- b 川崎市
- c 神戸市
- d 倉敷市
- e 別府市

- a 浦和市
- b 川崎市
- c 神戸市
- d 倉敷市
- e 別府市

(例 1) の正解は「c」であるから答案用紙の

101 ☐ a ☐ b ☒ c ☐ d ☐ e のうち ☒ c をマークして

101 ☐ a ☐ b ☒ c ☐ d ☐ e とすればよい。

(例 2) の正解は「a」と「c」であるから答案用紙の

102 ☐ a ☐ b ☒ c ☐ d ☐ e のうち ☒ a と ☒ c をマークして

102 ☒ a ☐ b ☒ c ☐ d ☐ e とすればよい。

- (2) 答案の作成には HB の鉛筆を使用し、濃くマークすること。

良い解答の例…… ☒ (濃くマークすること。)

悪い解答の例…… ☐ ☐ (解答したことにならない。)

- (3) 答えを修正した場合は、必ず「消しゴム」であとが残らないように完全に消すこと。鉛筆の色が残ったり ☒ のような消し方などをした場合は、修正したことにならないので注意すること。

- (4) ア. (例 1) の質問には二つ以上解答した場合は誤りとする。

イ. (例 2) の質問には一つ又は三つ以上解答した場合は誤りとする。

- (5) 答案用紙は折り曲げたりメモやチェック等で汚したりしないよう特に注意すること。

次の文を読み、1～3の問いに答えよ。

24歳の女性。全身倦怠感とむくみを主訴に来院した。

現病歴：4週前に海水浴に行き、日焼けをしてから微熱と全身倦怠感とを自覚し、数日前から顔面と下腿とにむくみが出現した。

既往歴：特記すべきことはない。

現症：身長154 cm、体重52 kg。体温37.8℃。脈拍88/分、整。血圧124/88 mmHg。意識は清明。前頭部の脱毛と両手指の凍瘡様皮疹とを認める。頸部と腋窩とに小豆大のリンパ節を数個触知する。

検査所見：尿所見：蛋白3+、糖(-)、沈渣に赤血球20～30/1視野、白血球20～30/1視野、顆粒円柱(+)。血液所見：赤沈85 mm/1時間、赤血球350万、Hb 9.2 g/dL、Ht 32%、白血球2,500(桿状核好中球5%、分葉核好中球65%、好酸球1%、単球7%、リンパ球22%)、血小板9万。血清生化学所見：総蛋白5.0 g/dL、アルブミン2.1 g/dL、尿素窒素18 mg/dL、クレアチニン1.0 mg/dL、総コレステロール360 mg/dL。抗核抗体640倍(基準20以下)。

1 この疾患でみられるのはどれか。2つ選べ。

- a 鞍鼻
- b 蝶型紅斑
- c 口腔潰瘍
- d 陰部潰瘍
- e 皮膚硬化

2 この疾患の活動性の判定に有用なのはどれか。2つ選べ。

- a CRP
- b リウマトイド因子
- c 抗DNA抗体
- d 血清補体価
- e 血清γ-グロブリン

3 この疾患にみられる病態で治療に対する反応性が乏しいのはどれか。2つ選べ。

- a 関節炎
- b 胸膜炎
- c 心内膜炎
- d 中枢神経病変
- e ネフローゼ症候群

次の文を読み、4～6の問いに答えよ。

45歳の男性。足のむくみを主訴に来院した。

現病歴： 約1年前から階段を昇るときに息切れを自覚し、最近労作時の息切れが増悪するようになった。3か月前から下肢のむくみと3kgの体重増加とがみられた。

既往歴： 23歳時に胸膜炎に罹患したが、2か月の自宅療養で軽快した。

家族歴： 父親が肺結核。

現症： 身長165cm、体重63kg。体温36.5℃。呼吸数18/分。脈拍70/分、整。血圧108/52mmHg。頸静脈は怒張し、頸部血管性雑音は聴取しない。胸部では、心尖部に汎収縮期雑音を聴取する。呼吸音に異常はない。両側下腿前面に浮腫を認める。

検査所見： 尿所見：蛋白(－)、糖(－)。血液所見：赤血球385万、Hb11.2g/dL、白血球4,100、血小板11万。血清生化学所見：総蛋白6.4g/dL、アルブミン3.1g/dL、クレアチニン0.7mg/dL、総コレステロール172mg/dL、総ビリルビン1.8mg/dL、GOT84単位(基準40以下)、GPT90単位(基準35以下)、LDH408単位(基準176～353)。胸部エックス線正面写真(別冊No.1A)と側面写真(別冊No.1B)とを別に示す。

別冊  
No. 1 写真A、B

4 この疾患でみられる身体所見はどれか。2つ選べ。

- a 巨大舌
- b I音亢進
- c 心膜ノック音
- d 肝腫大
- e 上下肢血圧差増大

5 この疾患でみられる心臓カテーテル所見はどれか。2つ選べ。

- a 右房圧上昇
- b 肺高血圧
- c dip and plateau 心内圧曲線
- d 大動脈弁圧較差
- e 高心拍出量

6 この疾患の治療として適切なものはどれか。2つ選べ。

- a 抗結核薬投与
- b 抗血栓薬投与
- c 強心薬投与
- d 利尿薬投与
- e 手術

次の文を読み、7～9の問いに答えよ。

46歳の男性。背部に放散する激しい腹痛を主訴に来院した。

現病歴： 昨日の夕方に大量飲酒した。夜半から背部に放散する上腹部痛が出現した。今朝から疼痛がさらに増強し、腹部全体に広がり、冷汗も出現した。

既往歴： 6年前腹部超音波検査で胆石を発見されたが放置している。3年前から高血圧症でカルシウム拮抗薬を投与されている。

嗜好： 32歳時から1日平均約3合の日本酒を毎日飲酒している。

現症： 身長165 cm、体重76 kg。体温37.8℃。呼吸数34/分。脈拍124/分、整。血圧76/48 mmHg。心肺に異常所見はない。腹部では、全体に圧痛を認め、反跳痛も認める。左背部に叩打痛を認める。

検査所見： 尿所見：蛋白1+、糖(-)。血液所見：赤血球391万、Hb 12.7 g/dl、Ht 38%、白血球11,800。血清生化学所見：血糖215 mg/dl、総蛋白6.2 g/dl、アルブミン3.3 g/dl、尿素窒素50 mg/dl、クレアチニン2.0 mg/dl、総ビリルビン1.0 mg/dl、GOT 62 単位(基準40以下)、GPT 76 単位(基準35以下)、LDH 760 単位(基準176～353)、アルカリホスファターゼ296 単位(基準260以下)、 $\gamma$ -GTP 320 単位(基準8～50)、アミラーゼ1,560 単位(基準37～160)、Na 133 mEq/L、K 5.0 mEq/L、Cl 100 mEq/L、Ca 7.2 mg/dl。CRP 38 mg/dl(基準0.3以下)。動脈血ガス分析(自発呼吸、room air) PO<sub>2</sub> 60.7 Torr、base excess -5 mEq/L。

7 直ちに行うべき処置はどれか。2つ選べ。

- a 蛋白分解酵素阻害薬投与
- b 利尿薬投与
- c 抗菌薬投与
- d 輸液
- e 酸素投与

8 予後を判断する上で最も有用な画像検査はどれか。

- a 腹部エックス線単純撮影
- b 腹部超音波検査
- c 腹部CT
- d ERCP
- e 腹腔動脈造影

9 この患者の病態で誤っているのはどれか。

- a 血管透過性亢進
- b 循環血液量増加
- c 中心静脈圧低下
- d 肺動脈圧低下
- e 腎血流量低下

次の文を読み、10～12の問いに答えよ。

43歳の女性。複視とふらつきとを主訴に来院した。

**現病歴** : 20日前から下痢を繰り返していた。10日前から複視が出現し、5日前から歩行時にふらつくようになった。

**生活歴** : 食事は不規則で、約5合の日本酒を毎日10年間飲用していた。

**現 症** : 身長155 cm、体重54 kg。体温36.5℃。脈拍72/分、整。血圧122/74 mmHg。ぼんやりしており、見当識障害がある。両眼の外転制限と全方向性の注視眼振とを認める。歩行は失調性である。両下肢遠位に軽度の筋力低下と手袋靴下型の感覚低下とがある。四肢腱反射は消失しているが、病的反射はみられない。

**検査所見** : 血液所見：赤沈15 mm/1時間、赤血球350万、Hb 9.7 g/dL、Ht 38%、白血球8,600、血小板13万。血清生化学所見：空腹時血糖96 mg/dL、総蛋白6.4 g/dL、蛋白分画(アルブミン55.7%、 $\alpha_1$ -グロブリン3.2%、 $\alpha_2$ -グロブリン7.1%、 $\beta$ -グロブリン10.7%、 $\gamma$ -グロブリン23.3%)、尿素窒素7 mg/dL、クレアチニン0.4 mg/dL、アンモニア45  $\mu$ g/dL(基準18～48)、総コレステロール140 mg/dL、総ビリルビン1.5 mg/dL、GOT 96 単位(基準40以下)、GPT 82 単位(基準35以下)、CK 28 単位(基準10～40)、Na 138 mEq/L、K 3.5 mEq/L、Cl 100 mEq/L。脳脊髄液所見：細胞数3/mm<sup>3</sup>(基準0～2)、蛋白60 mg/dL(基準15～45)、糖66 mg/dL(基準50～75)。

10 この患者で考えられる障害部位はどれか。2つ選べ。

- a 動眼神経
- b 脳 幹
- c 脊 髄
- d 末梢神経
- e 四肢筋

11 この患者に適切な治療法はどれか。

- a ビタミンB<sub>1</sub> 静注
- b ビタミンB<sub>2</sub> 静注
- c ガンマグロブリン静注
- d 副腎皮質ステロイド薬投与
- e 血漿交換

12 この疾患の後遺症としてよくみられるのはどれか。2つ選べ。

- a 健 忘
- b 失 認
- c 失 行
- d 作 話
- e 失 語

次の文を読み、13～15の問いに答えよ。

60歳の女性。言動の異常を心配した長男夫婦に連れられて来院した。

現病歴：2か月前から徐々に家にとじこもり横になっていることが多く、おかしいことを言うようになった。家族によれば、心配することは何もないのに、「今年の所得税が払えない。自宅が抵当に入ったので立ち退かねばならない。」と悩み、「そうなったのも昨年のお盆で先祖供養が不十分だったから。」と自分を責め、いくら言っても聞き入れない。食事もうろうとせず、入浴は無理やりでないと入らない。体重がこの2か月で3kg減少した。夜間はほとんど眠らないまま、何かぶつぶつ言っではお経を唱えている。「きっかけとしては、昨年新築した自宅の建築費についての税務署からの問い合わせが関係しているかもしれない。」と長男は言う。

この問い合わせは通常のもので問題は何かなかった。

既往歴：高血圧症のため10年前から投薬を受けている。

生活歴：夫と長男夫婦、孫2人の6人家族。元来きれい好きで働き者であった。

現症：身長150cm、体重55kg。脈拍74/分、整。血圧166/92mmHg。神経学的身体診察では異常を認めない。医師がいろいろ質問しても患者はうつむいてほとんど答えないか、小声で二言三言答える程度である。しかし意識ははっきりしており、現在の状況もわかっている。このままではいけないからと入院を勧めても、「貧乏で入院費が払えないから。」と頑として入院を拒否する。改訂長谷川式簡易知的機能評価スケールで23点(基準21以上)。

13 この患者にみられるのはどれか。

- a 痴呆
- b せん妄
- c 妄想
- d 強迫
- e 感情失禁

14 適切な処置はどれか。

- a 本人の意志を尊重しそのまま帰宅させる。
- b 1週後の再受診を指示する。
- c 夫の同意を得て医療保護入院させる。
- d 直ちに応急入院させる。
- e 措置入院のための手続きをとる。

15 この患者の治療法として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a イミプラミン投与
- b ワーファリン投与
- c ジアゼパム投与
- d 持続的気道陽圧法
- e 電気けいれん療法

次の文を読み、16～18の問いに答えよ。

1歳6か月の男児。発熱と顔色不良とを主訴に来院した。

**出生歴**： 在胎40週、自然分娩で出生した。出生時の身長51 cm、体重3,240 g、頭囲33.5 cm、胸囲33.0 cm。Apgarスコア10点(1分)。

**発育歴・既往歴**： 精神運動発達は正常である。予防接種はBCG、ポリオワクチン2回およびDPT I期完了。9か月時に突発性発疹に罹患した。

**現病歴**： 昨夕、不機嫌、38℃台の発熱および顔色不良に気付いた。夜は眠ったが今朝も不機嫌で元気がなかった。

**現 症**： 身長82 cm、体重10.2 kg。体温37.8℃。呼吸数60/分。脈拍160/分、整。血圧96/64 mmHg。意識はやや傾眠状態。顔色不良で顔貌は無欲状である。大泉門は閉鎖している。胸部に異常所見はない。咽頭は軽度発赤し、粘膜疹はない。リンパ節は触知しない。鼓膜の発赤はない。仰臥位で、頸部を前屈すると股関節と膝関節とで下肢が屈曲し、また両下肢を伸展位で挙上すると膝が屈曲する。足底をさすると跖趾は底屈する。

**検査所見**： 尿所見：異常なし。血液所見：赤血球394万、Hb 10.7 g/dL、白血球2,900(後骨髄球2%、桿状核好中球10%、分葉核好中球54%、単球12%、リンパ球22%)、血小板12万。CRP 11.2 mg/dL(基準0.3以下)。

16 この患児が1歳時にできたと考えられるのはどれか。2つ選べ。

- a つかまって歩く。
- b 両手を使っておもちゃで遊ぶ。
- c 積み木を2つ重ねる。
- d 上着を脱ぐ。
- e 二語文を言う。

17 この患児でみられるのはどれか。2つ選べ。

- a Babinski 徴候
- b Blumberg 徴候
- c Brudzinski 徴候
- d Kernig 徴候
- e Romberg 徴候

18 この患児の診断に最も有用なのはどれか。

- a 咽頭培養
- b 脳波検査
- c 血清ウイルス抗体価
- d 頭部CT
- e 脳脊髄液検査



次の文を読み、19～21の問いに答えよ。

80歳の女性。右上下肢の脱力を主訴に救急車で来院した。

**現病歴**： 約20年前から高血圧症を指摘され降圧薬投与を受けていた。日常生活は自立していたが、昨日朝からしゃべりづらくなり、今朝から右上下肢の力が入らなくなり、夕方トイレで立てなくなった。

**既往歴**： 75歳ころ、口唇と手とのしびれを認め、78歳時に左下肢の脱力に続いて動きが悪くなったことがある。

**生活歴**： 85歳の夫、長男夫婦と平屋家屋に同居。

**現 症**： 意識は清明。体温 36.4℃。呼吸数 20/分。脈拍 62/分、整。血圧 162/70mmHg。舌は乾燥し、尿失禁を認める他特記すべきことはない。神経学的診察では右側の顔面を含む不全片麻痺と舌の右方偏位とを認める。Babinski 徴候は両側で陽性である。

**入院後経過**： 内科的治療とリハビリテーションとを行った。意識状態は変化せず麻痺の進行もなかったが、尿路感染症を合併したところから昼夜の逆転現象と被害妄想とが出現した。リハビリテーションを再開したが、入院 40 日の時点で車椅子介助で意欲に乏しい。食事は左手で自力摂取可能であるが、尿失禁のためオムツを使用し、昼夜の逆転現象も持続している。

19 今回の入院時診断で可能性が最も高いのはどれか。

- a 慢性硬膜下血腫
- b くも膜下出血
- c 脳内出血
- d 脳塞栓
- e 多発脳梗塞

20 この患者の尿失禁の分類として可能性が低いのはどれか。2つ選べ。

- a 真 性
- b 反射性
- c 切迫性
- d 腹圧性
- e 溢流性

21 介護保険の認定を申請することにしたが、今後のリハビリテーションの場として適切でないのはどれか。

- a 在 宅
- b 介護老人福祉施設
- c 介護療養型医療施設
- d リハビリテーション病院
- e 特定機能病院



次の文を読み、22～24の問いに答えよ。

20歳の男性。発熱と咽頭痛とを主訴に来院した。

現病歴：10日前から全身倦怠感、38℃前後の発熱および咽頭痛が出現した。さらに、食欲不振、眼瞼の浮腫および上腹部重圧感も加わってきた。近医で感冒として治療を受けたが改善しないため来院した。

家族歴・既往歴：特記すべきことはない。

現症：身長173 cm、体重73 kg。体温37.8℃。脈拍90/分、整。血圧134/90 mmHg。咽頭部発赤、扁桃の腫大・発赤および表在リンパ節(顎下、側頸部、腋窩)の腫大を認める。聴診上異常はない。

検査所見：尿所見：比重1.030、蛋白(±)、糖(－)、ウロビリノゲン2+、潜血(－)。血液所見：赤沈65 mm/1時間、赤血球505万、Hb 16.5 g/dL、Ht 49%、白血球9,000、血小板20万。凝固系に異常はない。血清生化学所見：総蛋白7.6 g/dL、γ-グロブリン20%、総コレステロール170 mg/dL、尿素窒素25 mg/dL、クレアチニン0.7 mg/dL、GOT 250 単位(基準40以下)、GPT 300 単位(基準35以下)、LDH 680 単位(基準176～353)、アルカリホスファターゼ220 単位(基準260以下)。CRP 7.2 mg/dL(基準0.3以下)。

22 末梢血塗抹標本でみられるのはどれか。

- a 好中球増加
- b 好酸球増加
- c 好塩基球増加
- d リンパ球減少
- e 異型リンパ球

23 診断確定のために測定すべき血中抗体はどれか。2つ選べ。

- a HBs 抗体
- b HCV 抗体
- c 抗核抗体
- d EBウイルス抗体
- e サイトメガロウイルス抗体

24 この患者に投与してはならないのはどれか。

- a アシクロビル
- b アマンタジン
- c アンピシリン
- d インドメタシン
- e 乳酸加リンゲル液

次の文を読み、25～27の問いに答えよ。

38歳の初妊婦。腹部膨満と呼吸困難とを訴えて来院した。

現病歴：33歳で結婚。3年間不妊のため検査と治療とを受けていたが、最終的には排卵誘発薬を用いた体外受精・胚移植法によって妊娠した。妊娠6週3日、両側下腹部に軽い痛みがあり、左右の卵巣が鶏卵大に増大しているのを指摘されたが、他に特に異常はなく、外来通院を指示されていた。妊娠7週2日になって腹部膨満と息苦しさを自覚するようになったので救急来院した。

既往歴：特記すべきことはない。

現症：身長160 cm、体重50 kg。体温36.7℃。呼吸数28/分。脈拍72/分、整。血圧112/56 mmHg。意識は清明。チアノーゼはない。腹部は中等度に膨隆し、下腹部全体に圧痛がある。子宮は鶏卵大で両側卵巣は超鶏卵大に触知する。超音波検査で腹水を認める。

25 この病態の原因となっているのはどれか。

- a 妊娠
- b 腹膜
- c 卵巣
- d 子宮内膜
- e 絨毛組織

26 直ちに行うべき処置はどれか。2つ選べ。

- a 入院安静
- b 減塩
- c 浣腸
- d 利尿薬投与
- e アルブミン投与

27 状態が安定してから行うべき検査はどれか。

- a 尿中hCG定量
- b 経膈超音波検査による胎嚢数確認
- c 経膈超音波検査による頸管長計測
- d MRIによる両側卵巣腫瘍精査
- e 血清腫瘍マーカー検査

次の文を読み、28～30の問いに答えよ。

60歳の女性。2週間からの顔面と下腿とのむくみを訴え来院し、精査のため入院した。

現病歴：40歳の健康診断で尿糖を指摘されたが放置した。50歳ころから高血圧、軽度の蛋白尿および尿糖を指摘されたが、食塩摂取を制限する以外に特に治療を受けなかった。

既往歴：特記すべきことはない。

現症：身長154 cm、体重65 kg。血圧186/94 mmHg。眼瞼と下腿とに浮腫を認める。

検査所見：尿所見：蛋白3+、糖3+、潜血2+。血清生化学所見：空腹時血糖260 mg/dl、アルブミン2.4 g/dl、クレアチニン1.6 mg/dl、総コレステロール350 mg/dl。入院後に施行した腎生検組織のPAS染色標本(別冊No. 2)を別に示す。

別冊  
No. 2 写真

28 この患者にみられないのはどれか。

- a HbA<sub>1c</sub> 高値
- b 血清総蛋白低値
- c 血清 $\beta_2$ -ミクログロブリン低値
- d 血清尿素窒素高値
- e 血清カルシウム低値

29 まず行うべき治療はどれか。2つ選べ。

- a 高蛋白食
- b ループ利尿薬投与
- c 副腎皮質ステロイド薬投与
- d インスリン投与
- e 血液透析

30 この腎病変について誤っているのはどれか。2つ選べ。

- a ネフローゼ症候群を呈すると数年で腎不全になる。
- b 糸球体に免疫複合体が沈着する。
- c 尿中微量アルブミン定量は早期発見に役立つ。
- d 腎臓は萎縮する。
- e アンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬は進行阻止に有用である。

◎ 下記の欄に受験番号および氏名を記入すること。

| 受 験 番 号 | 氏 名 (楷 書 で 書 く こ と) |
|---------|---------------------|
|         |                     |